



図書館だより 9月

記録的な暑さが続いた夏もようやく過ぎ、朝夕には秋の気配が感じられるようになりました。2学期は大きな行事が続く実りの季節です。仲間と力を合わせながら一人一人の個性や創造力を発揮し、心に残る学校生活を築いていきましょう。また、秋は「読書の秋」でもあります。本との出会いを通して、新しい発見や学びを深めてほしいと思います。

8月22日(土)

場所：松山市堀之内・城山公園内

愛媛県立図書館がリニューアルオープン！

(すでにクラス掲示で紹介しましたが…)

耐震改修工事を終えた愛媛県立図書館が、この夏リニューアルオープンしました。館内は明るく快適な空間へと生まれ変わり、学習室の座席増設や設備の更新など、利用しやすさが大きく向上しました。

さらに、子ども読書室も木のぬくもりを感じられる魅力的な空間へと生まれ変わっています。



1階 子ども読書室



2階 学習室



3階 一般図書室

読書や調べ学習、進路研究に活用できる県内最大級の図書館です。小説や新書はもちろん、探究活動やレポートの作成に役立つ資料も数多くそろっています。愛媛に関する資料を集めた「えひめ資料室」もあり、地域について深く学ぶことができます。

ぜひ新しくなった県立図書館で、新たな知識や一冊との出会いを楽しんでください。



新着図書



『ゾンビ回収婦』小砂川 チト:著 (講談社)

AI に仕事を奪われた主人公が、VR ゲームの世界でゾンビを回収する掃除婦として働くことになる物語。一風変わった設定の中に、「働くこと」や「生きること」の意味を問いかける、**第175回芥川賞受賞作**です。読み終えた後、きっと誰かと語り合いたくなるはず。

『青天』若林 正恭:著 (文藝春秋)

お笑いコンビ〈オードリー〉の若林正恭さんによる初の長編小説。**第175回直木賞候補作**として注目を集めました。弱小アメフト部の高校生が、挫折や葛藤を乗り越えながら成長していく青春小説。悩みながらも前に進もうとする主人公の姿に勇気をもらえます。進路や将来に迷う高校生にぜひ読んでほしい一冊。

『永遠の記憶』東野 圭吾:著 (文藝春秋)

多くのベストセラーを生み出した**東野圭吾の事実上の遺作**となった、人気「ガリレオ」シリーズの最新長編です。巧みなミステリーとしての面白さはもちろん、人の記憶や人生の選択について深く考えさせられる作品です。長年多くの読者を魅了してきた作家の最後のメッセージを感じられる一冊。

『「半導体」のことが一冊でまるごとわかる』井上 伸雄・蔵本 貴文:著 (ベレ出版)

スマートフォンやパソコン、自動車など、私たちの暮らしを支える「半導体」。ニュースでよく耳にするけれど、実際にはどのようなものなのでしょうか。本書は、半導体の基本的な仕組みから、その歴史、最新技術までを**わかりやすく解説した入門書**。理系分野に興味のある人はもちろん、社会や経済の動きを理解したい人にもおすすめ。これからの時代に欠かせない知識を、一冊で学ぶことができます。

このほかにも**多くの新着図書**が入っています。
「次に何を读もうかな」と思ったら、ぜひ図書館へ。